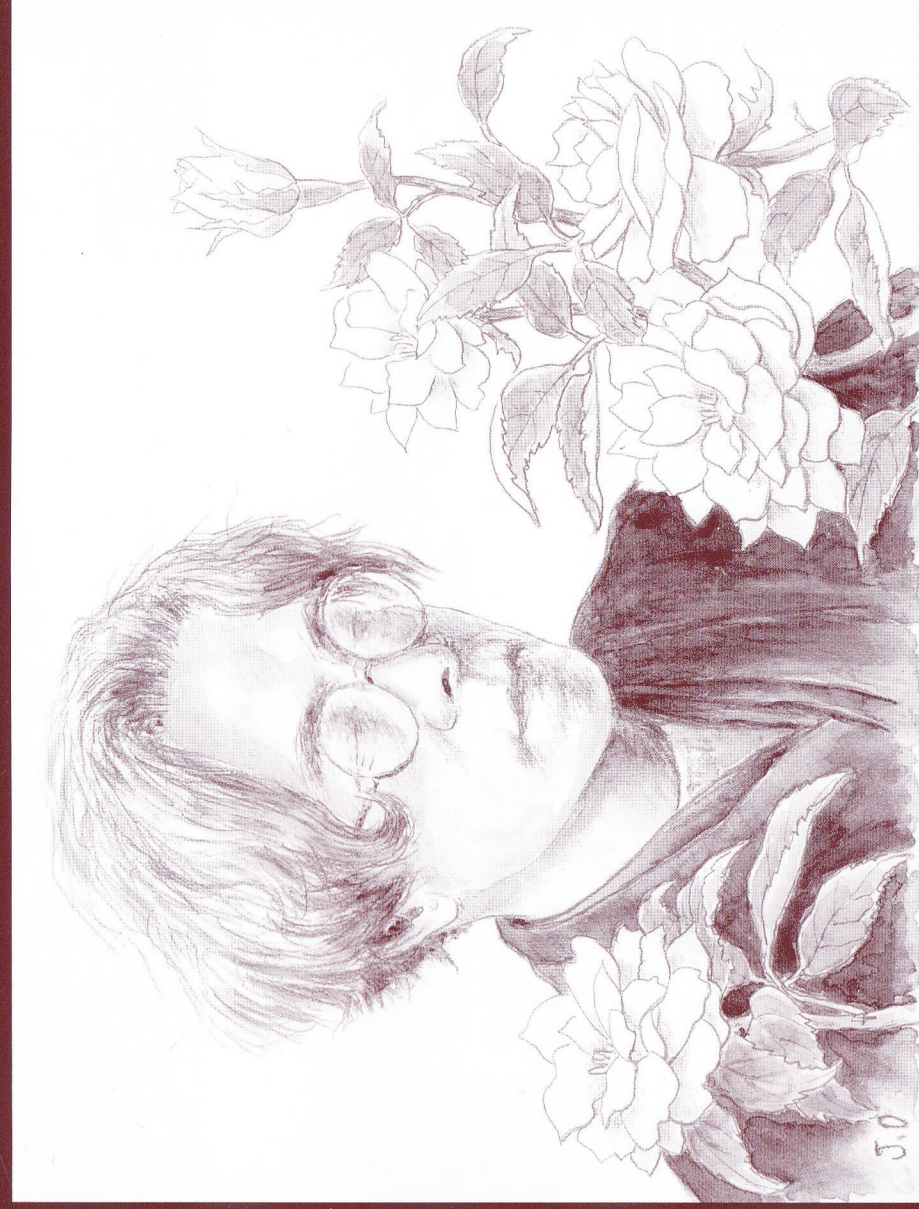




小田原男声合唱团

第42回定期演奏会



2013.11.16 (土) 午後2:15 開場 午後3:00 開演

小田原市民会館大ホール

主催 小田原男声合唱团

後援 小田原市教育委員会

日本男声合唱協会 (JAMCA)

神奈川県男声合唱協会 (KAMCA)

湘南合唱連盟

小田原地区合唱連盟

小田原音楽連盟

ごあいさつ

小田原男声合唱団
団長 斎藤 恵司



本日はお忙しい中を第42回定期演奏会にご来場いただきまして、本当にありがとうございます。今年の定期演奏会での大きな特徴は、『ワンスステージメンバー』として参加いただけた新しい仲間とのステージを設けたことです。団の活性化や団員増への願いをこめでの試みです。その第1回目となる今回は、男声合唱の名曲といわれる「雨」の演奏に15名を超える方々の応募がありました。この「雨」は、1975年に小田原男声合唱団がレコーディングし東芝より発売された想い出の曲でもあります。応募の方々には、神奈川県内はもちろん、県外からも練習にかついていた方もおられます。現在、混声合唱団、男声合唱団に在籍中の方、かつて男声合唱団に在籍していた方(小田原OBや休団中の方もおられます)、そして合唱未経験の方と多様です。練習の第1回目は3月でした。それから12回の練習を重ねてまいりました。60余名の男声合唱の響きを会場の皆さん、そしてステージで歌う私たちも堪能できればと思います。

また、昨年の演奏会から取り組み始めた『委嘱作品の再演』では、第37回定期演奏会(2008年)で信長貴富先生へ編曲をお願いし初演した「5つのオアハケーニャによる憧憬」を演奏します。この曲は2010年に私たち小田原男声合唱団が小田原市のアメリカでの姉妹都市であるカリフォルニア州チュラビスタ市を表敬訪問した際に演奏しました。メキシコ国境に近い現地ではスペイン語との関わりも多く大好評でした。初演の際はメキシコ民謡の雰囲気十分に表現する余裕がありましたが、今回の再演では少しでもレベルアップした演奏ができればと思っています。

さて、今年の小田原の活動では多くの男声合唱団との交流が上げられます。4月には、ここ小田原にKAMCA(神奈川県合唱協会の12団体が集まる演奏会。7月には、長野県岡谷市でのJAMCA(日本男声合唱協会)信州演奏会)で日本各地の合唱団との交流がありました。男声合唱を愛する多くの仲間たちから多量の刺激を受けました。さらに来年9月には、ドイツ遠征を予定しております。

このように充実した活動を進めてきている小田原男声合唱団ですが、50周年という大きな目標を掲げて今後も充実した活動を継続するためには、解決しなければならない課題が多々あります。それらの課題をいかに克服していくかで小田原の真価が問われるのではないかと思います。今後とも皆様方の温かい励ましや、時には厳しい言葉もいただければ幸いです。

それでは、本日の演奏会をお楽しみいただけたことを願い、ご挨拶とさせていただきます。



§ プログラム

I 歌でつむぐ日本の絆 日本民謡集

指揮 牛丸 紘一

- | | | | | |
|---|--------|--------|-------|----|
| 1 | 斎太郎節 | 宮城県民謡 | 竹花 秀昭 | 編曲 |
| 2 | 大島節 | 伊豆大島民謡 | 福永陽一郎 | 編曲 |
| 3 | 音戸の舟唄 | 広島県民謡 | 北村 協一 | 編曲 |
| 4 | 五木の子守唄 | 熊本地方民謡 | 福永陽一郎 | 編曲 |
| 5 | 最上川舟唄 | 山形県民謡 | 清水 脩 | 編曲 |

II 男声合唱曲「雨」より

指揮 外山 浩爾

～ ワンスステージメンバーと共に ～

- | | | | |
|---|----------|-------|----|
| 1 | 雨の来る前 | 伊藤 整 | 作詩 |
| 2 | 武蔵野の雨 | 大木 惇夫 | 作詩 |
| 3 | 雨の日の遊動円木 | 大木 惇夫 | 作詩 |
| 4 | 雨の日に見る | 大木 惇夫 | 作詩 |
| 5 | 雨 | 八木 重吉 | 作詩 |

休 憩

III 5つのオアハケーニャによる憧憬

指揮 外山 浩爾

— 第37回 定期演奏会 編曲委嘱曲 再演 —

- | | | |
|---|-----------------|-----------|
| 1 | La Martiniana | マルティニアーナ |
| 2 | Canción Mixteca | ミフテフ族の歌 |
| 3 | Mi Linda Oaxaca | 私の美しきオアハカ |
| 4 | La Sandunga | サンドゥンガ |
| 5 | Mañanitas | マニャニータ |

IV 男声合唱曲「まぼろしの薔薇」

指揮 ビアノ 中根 希子

大手 拓次 作詩 西村 朗 作曲

- 1 まぼろしの薔薇
- 2 薔薇の誘惑
- 3 ばらのあしおと
- 4 狐独の薔薇
- 5 ひびきのなかに住む薔薇よ

日本民謡集

斎太郎節 宮城県民謡

宮城県の松島湾一帯で歌われていた鱈漁のたぬの「ろ漕ぎ歌」。「大漁歌い込み」の名で全国に知られた。昭和40年頃、東北学院大グリーが演奏旅行をする際にレパートリーに地元民謡を入れようと当時の学指揮竹花秀昭氏が男声合唱曲に編曲。関学グリーとのジョイントが縁で、名指揮者北村協一氏の目にとまりアールバムに収録。以来、全国の男声合唱団の定番、愛唱曲となった。

大島節 伊豆大島民謡

東京都にある伊豆大島、天気の良い日には、小田原からも相模湾越しに眺めることができ。もともと島民たちが茶摘み、茶もみの労働歌として歌っていた『野増節』。明治以後に輸出品の花形品として茶葉が横浜野毛に集荷されるようになり、火入れ加工する作業の中で野毛近辺で歌われていた『お茶場節』が取り入れられ現在のメロデューナーになったと言われている。末尾ですが、先の台風で被災されました皆様方へお見舞い申し上げます。

音戸の舟唄 広島県民謡

広島県呉市警固屋と倉橋島との間に、幅の狭いところは70メートルほどの「音戸の瀬戸」

男声合唱組曲「雨」より 多田武彦 作曲

男声合唱組曲「雨」の初演は、昭和42年(1967)5月、外山浩爾先生の指揮で明大グリークラブによって演奏された。その後、この曲は全国の男声合唱団の愛唱曲とされて、現在まで歌い継がれている。小田原男声合唱団でも創立記念第1回定期演奏会(1972.5.16)の曲目として歌われた。また、『現代合唱曲シリーズ多田武彦作品集』(東芝 EMI)に故福永陽一郎先生の指揮でレコーディングした思い出の一曲でもある。

今回は、奇しくも初演指揮者であり、現在の小田原男声合唱団の音楽監督常任指揮者でもある外山浩爾先生の指揮でこの曲が演奏されることを団員一人ひとりが楽しみにしている。

男声合唱組曲「雨」の曲目については、作者多田武彦先生がその作曲の動機について述べておられるので、再掲させていただきます。

『雨は、人間にとっても、ずいぶんと親しい間柄である。そのうつつとおしい自然現象は、昔から人間にいろいろ孤独感や悲哀感をあたえてきた。また同時に、雨があがるとき、あの清らかなすがすがしさは、しみじみと心に伝わってくる。そういう、さまざまに雨と、そのときどきの人間の心との交流を主題にして、この作品を心をこめて書いてみた。

第1曲「雨の来る前」と第2曲「武蔵野の雨」では、自然現象として、力強く、またときにはうつつとおしい雨をとらえた私は、第3曲「雨の日の遊動円木」では、人のいない児童公園のつめたい風情のなかに、人間の孤独感がにじませ、冬(略)そして、第5曲「雨の日に見る」では、冬の雨の日の、あのもやのかかったような冷気を

がある。吳湾と安芸灘を結ぶ近道として、多くの舟がこの音戸の瀬戸を利用する。潮の干満につれて急流となり、海中に突き出た岩に当たって渦巻き、ここを艦を漕いで乗り切るのは大変難しく、船頭泣かせの難所であった。その音戸の瀬戸を通り抜けていく舟を見て、いつ頃、誰が作ったのか『船頭 かわいや 音戸の瀬戸で 一丈五尺の 轆がしわる』の名文句が生まれ、今に唄い継がれている。

五木の子守唄 熊本地方民謡

子守奉公に出された娘たちが歌ったこの子守唄は、「おどま」=自分たちの置かれた境遇の苦しさの吐露である。諦観の中で歌われたのか、奉公主らを批判して歌われたのかは、解釈が分かれる。その哀切なメロデューナーは多くの人々をとらえず、昭和初期からメロデューナーに取り上げられ、全国的に認知される民謡のひとつとなった。

最上川舟唄 山形県民謡

昭和11年、NHK 仙台放送局が「最上川を下る」という番組を作るに当たり、最上川の船頭らに聞き取りを行ったが、当時独自の舟唄は無く、酒田追分や松前くずし、難所越えの掛け声等を元にし、新たに曲が作られた。清水脩のこの編曲は完成度が高く好評である。

通して、孤独感や悲哀感にうちひしがれた主人公が、庭に見事に実ったザボン一ある人にとっては、それは到底実現しそうもない輝かしい理想であり、ある人にとっては、それは手にとどかない所にいる恋人であるが一と離れてじつと座っている姿を、浮き彫りにし、第6曲「雨」では、こうした悩みや苦しみから昇華し切った主人公が、溢れ出ようとすする涙をおさえて、しみじみうたい、終る曲想とした。(小田男創立記念定演プログラムより)

I 「雨の来る前」伊藤整の処女詩集『雪明かり路』(大正15.12)の中的一篇。詩集は、10代後半から20代前半に書かれた北海道小樽在住中の116篇からなる。詩集の3番目の詩で、小樽商業高等学校時代の作品である。清新さの溢れる口語詩である。

II 「武蔵野の雨」処女詩集『風・光・木の葉』(大正14.1)、III 「雨の日の遊動円木」第2詩集『秋に見る夢』(大正15.9)、V 「雨の日に見る」第3集『危険信号』(昭和5.9)、は共に大木惇夫の詩である。3篇の詩から孤独感や悲哀感を感ずるのは、詩人大木惇夫が妻慶子の肺結核に冒されていく日常を見つめる絶望的な視線を意識するからでしようか。

VI 「雨」詩稿『母の瞳』(大正14.9)八木重吉は、処女詩集『秋の瞳』(大正14.8)発刊時、詩人勝承夫に返書で「50歳になればほんとうの詩がかけてくる。50歳までは準備だ」と書き送っている。肺結核はその時間を詩人に与えず、享年29歳を一期に夭折した。

〔文責：B1 伊東 清邦〕

小田男は2008年、第37回定期演奏会に、客演指揮、清水雅彦先生をお迎えし、予てからの「中米の作品」を信長貴富先生の編曲で演奏する機会を得ました。これまでJAMCA 演奏会では意欲的に新作を初演して来ましたが、今回、この作品を再演することとなりまりました。第37回定演に際し、清水先生よりプログラムへ寄稿をいただきました。作品誕生へ向けて、先生の熱き思いを以下にご紹介させていただきます（紙面の都合で一部略）。

オアハケーニャについて

メキシコ合衆国南部、太平洋岸に面した山がちの州オアハカは、世界文化遺産にも登録されている大遺跡が点在し、低地と太平洋岸地域は高温多湿であるが、州都オアハカのある高原地帯は乾燥し、夏でも夜間は涼しく、穏やかな気候に恵まれている。メキシコの魅力を凝縮したようなオアハカは、多くの観光客が魅了され、また訪れたいと願う、そんな美しい地である。そこに住まう人のことをスペイン語で Oaxaqueño オアハケーニョ（女性は語尾が a となるのでオアハケーニャ）と言い、またこの地に伝わる歌・民謡を Oaxaqueña オアハケーニャ（歌は女性形で表す）と呼ぶ。オアハケーニャの多くはしつとりとしたメロディ一を持ち、日本人の感性に近いものも多く存在する。そこに流れる歌に懐かしささえ覚えるのは、遠い祖先が繋がっていたからだろうか。

作品が生まれるまで

昨年4月よりこの3月まで一年間、勤務先の都留文科大学の在外研究制度により、グアテマラ共和国に滞在。この間、研究テーマを「中米における声楽・合唱作品と作曲家研究」とし、メキシコと中米各国を周り、声楽、指揮法の講習を受け持つとともに、多くの作品や音楽家と出会い、貴重な関係作りをしてきた。オアハカでのそれは格別な思いが残る。

Israel Rivera（イスラエル・リベラ）氏は、まだ20代の合唱指揮者。彼の父 Israel 氏（中米では父親は息子に、母親は娘に自分と同じ名前を授けることが多い）は有名な合唱指揮者であり、地元の名士であったが、残念なことに急逝し、その後を継いだのが Israel 息子であった。私は運よく、彼が母親（合唱団の歌い手で

男声合唱組曲 まぼろしの薔薇

大手拓次 作詩 西村朗 作曲

男声合唱組曲「まぼろしの薔薇」は、混声合唱曲として昭和59年(1984年)、合唱団OMPの委嘱曲として作曲された。管弦楽曲、室内楽曲、吹奏楽曲等秀抜の作品を多数発表し現代日本を代表する作曲家西村朗の最初の合唱曲でもあり、男声合唱曲「まぼろしの薔薇」は、日本の合唱作品100選にも選ばれている。この曲を男声合唱で歌いたいという要望に応え、自身の手により男声版に編曲された。

詩人大手拓次(明20, 11, 3~昭9, 4, 18)が詩人として活躍したのは、大正元年から昭和3年の約16年間で、その間、主に北原白秋の詩誌に詩、散文詩、訳詩が夥しく発表された。荻原朔太郎の言葉によれば「白秋旗下の三羽鴉(大手拓次、室生犀星、萩原朔太郎)と並び称された詩人の一人だったのである。なぜ、他の二人の名前ほど詩人としての実像が伝わらなかったのだろうか。幾つかの要因があると思うが、その詩の持つ独特の雰囲気(象徴詩)と当時の結社にも属さず、生前に詩集が発刊されなかったことかも知れない。ポードレー、サマン等に代表されるフランス象徴主義の影響を強く受け、時代のモダンの先端を歩んだ詩表理であった。本日歌われた男声合唱組曲「まぼろしの薔薇」の5篇の詩は、死後に出版された詩集『藍色の墓(0き)』(昭11, 12アルス自費出版)の「みどりの薔薇」の13篇の詩から選ばれたものであり、拓次の詩の特色が表わされた作品である。

大手拓次の詩集は生前発刊されなかったが、死後2年目に序文北原白秋、跋文(ぼつぶん)荻原朔太郎、評伝逸見亭により、白秋の弟鉄雄の経営する「アルス」から皮表紙金刷の豪華詩集『藍色の墓』として出版されたのである。北原白秋の序文によれば「此の『藍色の墓』一巻の重量と柔らかみとは、その掌に戴く人々をして希有の新詩集として讚嘆せしむるであらう」と

ある)と二人で暮らす家に数日間滞在させていただき、Israel 父の写真に見守られながら膨大な楽譜や録音に触れることができた。その時に持ち帰らせていただいたオアハケーニャの中の5曲が、本月初演するものである。

実は日本を発つ前に、小田原男声合唱団を振らせていただくことが決まっていた、その際は「中米の作品」を、と団からも希望が出されていた。しかしながら合唱はほとんどが混声、時々女声が存在するという地域において、男声合唱作品に出会うチャンスはついに巡ってこなかった。それであるならばと、膨大な資料から手に取ったのは、先に記した通り懐かしさが感じられるオアハケーニャであった。

その際、編曲については、信長貴富氏をおいて他に思い浮かばなかったが、幸い信長氏と小田原男声合唱団との関係もすでにあり、すぐにご快諾いただいた。そして、いくつかの感動的な人との関わり、嬉しい偶然とが重なり生まれたこの作品を「5つのオアハケーニャによる憧憬」と名付けた。

元譜は簡単なハーモニーがついているものもあつたが、単旋律のものがほとんどで、多くは手書きであるため歌詞も音も読みにくく、編曲は困難を極めたであらうことが容易に想像できる。しかしながらスペイン語に果敢に挑戦してくださった小田原男声の皆さんと音を紡ぐたびに、オアハカの美しい情景と Rivera 一家の笑顔が浮かび、信長氏の手腕の見事に感嘆し続けた。この作品が生まれたこと、本月初演できること、そしていつかメキシコに持ち帰ること、すべてが憧れの中に在る。すべての皆様に、この場を借りて大きな感謝を捧げたい。

《第37回定演プロから 清水雅彦 先生 寄稿文より》

いうことである。しかし、大手拓次は生涯を独身で過ごしたため、詩集『藍色の墓』の序文、跋文、評伝の記載内容と拓次の詩表現が重ねられ好奇心な詩人像として流布され、知名度が一部の愛読者にとどまり大衆化されなかったのではないだろうか。

実は、大手拓次はライオン歯磨の広告部文案係として約20年間勤務し、現代のコピーライターとして活躍している。評伝を書いた友人で画家の逸見亭は、文ではあるが、「彼の詩的教養はその広告文案に現はれて、一種の清新味をたよはせた」と書いていることでも分かる。ライオン歯磨の社内報『ライオンだより』には「1932の広告と近代絵画との関係」等や業界紙に『香水の表情について～漫談的無駄話』を三回にわたって連載している。

大手拓次の終生の地が茅ヶ崎であることを知る人は少ないのではないだろうか。昭和9年結核の症状を悪化させて入院していた茅ヶ崎にあった結核療養施設「南湖院」12号室で看護婦一人に看取られ47歳の生涯を閉じている。大手拓次が病床で書き続け絶筆となったであろう詩「薔薇の散策」の最終章(36)を次に挙げる。

さかしらに みづからをほこりしはかなさに
づはれ 無明の涙に さめざめとよみがへる 薔薇の
花。
〔文責：B1 伊東 清邦〕

外山 浩爾 音楽監督 / 常任指揮者



外山国彦を父に、雄三を兄の音楽一家に生まれ、幼少より音楽教育を受ける。東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業後、直ちに同大学及び同附属音楽高校で教職に就く。傍ら藤原歌劇団の活動に参画し、「森の歌」「ドイチツチエス・レクイエム」等のソロ、「カルメン」等、多数のオペラ、「メリーゴータラント」等長期テレビ等広範囲の活動をする。一方、父親譲りの合唱啓蒙運動に参画、世界合唱連合(現IFCM)設立代表委員、東京都合唱連盟理事長、全日本合唱連盟副理事長等を歴任。殊に明治大学グリークラブをウエーバー音楽祭で銀賞にまで育て、個人として明治大学特別功労賞第1号に輝く。現在も国内外の現代合唱作品の新作初演等の活動が続けている。

教育活動では、東京藝術大学附属音楽高校副校長をはじめ東京藝術大学、鳴門教育大学、兵庫教育大学連合大学院教授、聖徳大学大学院教授、全日本音楽教育研究会副会長等を歴任し、文部大臣より教育功労表彰を受ける。1996年小田原男声合唱団の音楽監督・常任指揮者に就任。

現在、全日本音楽教育研究会顧問、東京藝術大学音楽学部同声会副会長、(社)全日本合唱連盟名誉会議員、日本合唱指揮者協会、NHK全国学校音楽コンクール審査員、板橋区混声合唱団、世田谷区合唱連盟主宰合唱団リーダー、葛飾区民合唱団、共立女子大学合唱団等の指導にあたる。

牛丸 紘一 団内指揮者

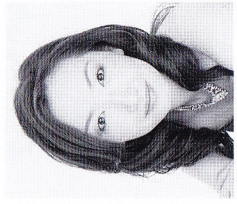


小中学校の頃より器楽合奏部・吹奏楽部に入り音楽に親しんでいたが高校で合唱で出会い、以後今日に至るまで「合唱命」の生活を送る。高校の恩師により合唱指揮と和声の指導を受けて指揮を始め、大学時代は母校金沢大学合唱団の指揮者を務めて学生生活の大半を部室で過ごした。卒業後は京都にて製薬会社勤務の傍ら、京都で最も伝統のある京都混声合唱団に入団、副指揮者・指揮者を務めた。この間、京都市交響楽団との協演の機会にはパツハの「マタイ受難曲」、ハイドンの「四季」、ベートーヴェンの「第九」、モーツァルト、ドボルザーク、ヴェルディ、フオーレ、デュルフルの「レクイエム」、メンデルスゾーンの「エリア」、マーラーの「復活」、ラベルの「ダフニスとクロエ」等の合唱指導を担当した。また、自社会唱団を率い、産業人合唱コンテスタトや音楽祭で優秀な成績を収めたほか、女声合唱団等の指揮者としても活躍した。1995年、転勤により小田原へ移住し当団に入団、2005年より団内指揮者を務めている。

星旭、中村外治、青山政雄、蔵田裕行氏に指導を受ける。

日本新薬(株)取締役を歴任。

中根 希子 ピアノ



平塚江南高校を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科ピアノ専攻卒業。第4回かながわ大学生音楽コンクール入賞、県市長会会長賞受賞。第48回全日本学生音楽コンクール高校の部東京大会入選。第3回賞、江杯国際音楽コンクール第2位。ウイーン、シカゴ等での音楽セミナーマスタークラス参加、ディプロマ取得、修了演奏会に出演。1999年東京都庭園美術館コンサートでは若手実力派演奏家として毎日新聞に掲載。同年、ポーランド共和国大使館後援「日本ポーランド国交樹立80周年記念および国際シヨパン記念演奏会」に出演。2000年「ピアノ名曲集」のCDを発売。

小田原市記念事業製作の新童謡CD全3作収録参加。2007年小田原市民劇場、小林研一郎指揮「市民による第九演奏会」、2008年小林研一郎指揮「モーツァルトレクイエムニ短調」、2009年末廣 誠指揮「市民による第九演奏会」、2010年広上淳一指揮「市民によるオペラ・ガラ・コンサート」、2011年富澤裕指揮「市民によるフォーレ：レクイエム」、2012年広上淳一指揮「市民によるブラームス、ドイツ・レクイエム」、2013年山田和樹指揮「市民によるメンデルスゾーン、讃歌」のピアノアシスタントを務める。他方、2009年4月ウイーンフィルメルバー・シュェトイデ弦楽四重奏団と共演し好評を博す。国内外のリサイタル活動はもとより、歌曲、合唱伴奏初演、室内楽等の演奏会やレコーディング、FMおたわでの出演等幅広く活躍。また2010年8月「白秋・耕柁を歌い継ぐコンサート〜大谷冽子さんをおんで〜」では白井英治・白井彩各氏とトリオを好演。2012年9月中根希子ピアノリサイタルでは生誕150年を記念しドビュッシー、リストを演奏、大好評を博し聴衆を魅了した。また、2013年5月豊嶋泰嗣ヴァイオリンコンサートにおいてピアノを務め好評を博す。

植田克己、佐藤俊、ノエル・フローレスの各氏に師事。

杉山 範雄 ヴォイス・トレンナー



小田原出身。10歳より小田原少年少女合唱隊に入隊、ルネッサンスから現代まで多くのアカペラ・アレンジャーを学ぶ。湘南工科大学附属高等学校、東京藝術大学音楽部声楽科を経て、これまでに、「コシ・フアン・トゥッテ」ドン・アルフォンソ、「魔笛」ザラストロ、「カルメン」エスカミリーヨ、等を演じ、クーブラント「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、フオーレ「レクイエム」、「カルミア」、モーツァルト「戴冠ミサ」「レクイエム」、ベートーヴェン「第九」、フオーレ「レクイエム」、「カルミナ・ブラータナ」等、演奏会バスのソロにて多数出演、小泉ひろし、小林研一郎、飯森範親等、各指揮のもとソロを務める。

金沢混声合唱団、In Pace、栄女声合唱団、ぶどうの会、鎌倉市民混声合唱団、北鎌倉女声合唱団、アンサンブル萌、等の常任指揮者を務める他、サウンドプロダクション、JVC合唱団、エーロ・フォーレスタ、横浜混声合唱団の指揮者を務めている。桐朋学園大学附属「子供のため音楽教室」、明治大学グリークラブ、小田原男声合唱団等の歌唱指導に取り組んでいる。

さがみ・コミュニケーションホール文化事業やさしい合唱講座、等講師。

声楽を多田羅迪夫、桑原妙子の各氏に師事。神奈川県合唱連盟理事。

2010年小田原男声合唱団の指揮者ヴォイス・トレンナーに就任。

平成25年度(2013年)事業、今後の主な事業 等

(1)	2013.	1. 8	(火)	歌いはじめ	旭丘高校音楽室
(2)		2. 9	(土)	総会	小田原市民会館
(3)		3. 16	(土)	神奈川男声合唱協会KAMCA 合同練習	小田原市民会館 大H
(4)		3. 16	(土)	みんなで歌おう! 市民によるメテリスローン	小田原市民開館 大H
(5)		3. 17	(日)	みんなで歌おう! 市民によるメテリスローン	小田原市民開館 大H
(6)		4. 6	(土)	神奈川男声合唱協会 KAMCA 合同練習	横浜 かなつくH
(7)		4. 27	(土)	神奈川男声合唱協会 KAMCA 第10回記念	小田原演奏会
(8)		6. 2	(日)	第62回 湘南合唱祭	
(9)		7. 13	(土)	日本声合唱協会 JAMCA 信州演奏会	小田原市民会館 大H
(10)		7. 14	(日)	日本声合唱協会 JAMCA 第21回 信州演奏会	小田原市民会館 大H
(11)		10. 5	(土)	強化練習(合宿泊~9/30)	長野県岡谷市カノラH
(12)		10. 20	(日)	第47回 小田原市民合唱会	長野県岡谷市カノラH
(13)		11. 15	(金)	第42回 定期演奏会	いこいの村あしがら
(14)		11. 16	(土)	第42回 定期演奏会	小田原市民会館 大H
(15)		12. 24	(火)	歌いおはじめ	小田原市民会館 大H
(16)	2014.	1. 7	(火)	歌いおはじめ	旭丘高校音楽室
(17)		3. 16	(日)	みんなで歌おう! 市民による 新演奏会 協力	旭丘高校音楽室
(18)		6. 1	(日)	第63回 湘南合唱祭	小田原市民会館 大H
(19)		9. 6	(土)	強化練習(合宿泊~9/7)	海老名市文化会館 大H
(20)		9. 25	(木)	ドイツ演奏旅行(~10/1 成田着)	いこいの村あしがら
(21)		10. 19	(日)	第48回 小田原市民合唱会	小田原市民会館 大H

第43回 定期演奏会 11月15日(土) 開場 14:15 開演 15:00 小田原市民会館 大ホール

予定曲目	男声合唱のためのカンタータ「土の歌」ピアノ付	大木 惇夫 作詩 佐藤 眞 作曲
	農夫と土 祖国の土 死の灰 もぐらもち 天地の怒り 地上の祈り 大地讃頌	
	男声合唱組曲「永久ニ(トコシナニ)」ピアノ付	鈴木 憲夫 作詩 作曲
	永久ニ(トコシナニ) 星の降る丘 宇宙(アマノタ) のもと	
	男声合唱による アラカルト集	
	選曲中	

団員 随時 募集 !! いっしょに歌いましょう !!

年齢 高校生~80歳代と、幅広い年齢層です。
 性別 男性で、歌好きであれば、どなたでも歓迎です。お気軽にお越しください。練習用CD等を用意します。
 年齢 勿論、初めての方でも大丈夫です。お気軽にお越しください。練習用CD等を用意します。
 性別 隔年の日本男声合唱協会、神奈川男声合唱協会の演奏会では、400余名による合同曲も演奏できます。
 団員 小田原・真鶴・湯河原・伊東・南足柄・二宮・茅ヶ崎・藤沢・鎌倉・鎌倉・横濱
 松田・大井・中井・秦野・伊勢原・厚木・岡山原赤警市と広範囲です。
 練習日 毎週火曜日 18:30~21:00 小田原 旭丘高等学校 (小田原よりお城方、徒歩7分)
 連絡先 鈴木壽久 TEL 0465(73)8328 岩越万里 TEL 0465(34)9177 青野幸夫 TEL 0463(87)2473

ワンステージ メンバー 募集 《2014.11.15 の 第43回定期演奏会で、一緒に歌いましょう》

年齢 高校生~80歳代と、年齢制限はありません。
 性別 男性で歌好きであればどなたでも歓迎です。初めての方でも大丈夫です。練習用CD等を用意します。
 練習日 火曜日 18:30~21:00の中で 小田原 旭丘高等学校 (小田原よりお城方、徒歩7分)
 4月より、月1回平均、10回程度(練習日等の詳細は前掲連絡先まで)
 演奏曲目等 詳細は3月にご案内します。費用5000円(月会費なし) 楽譜代は実費です。

委嘱曲 への歩み

2001年	第30回記念 定期演奏会 委嘱曲	初演 (JAMCA 石川 眞 蔵) 大木 惇夫 作詩 多田 武彦 作曲
2006年	男声合唱組曲「西湘の風雅」委嘱曲	北原 白秋 作詩 多田 武彦 作曲
	男声合唱組曲「互寒小景(かむらりけい)」	中川 季枝子 作詞 久石 義彦 作曲
	男声合唱のための 宮崎駿アニメ映画音楽集	覚 和歌子 作詞 木村 弓 義彦 作曲
	さんぽ	中川 季枝子 作詞 久石 義彦 作曲
	いっしょにfinale~	大木 惇夫 作詩 多田 武彦 作曲
2008年	第37回 定期演奏会 委嘱曲	信長 貴富 編曲
	男声合唱組曲「大木惇夫の詩から 四季点綴(しまいでい)」	信長 貴富 編曲
2009年	5つのオアハケーニヤによる憧憬	初演 (JAMCA 瀬江にて)
	第38回 定期演奏会 小田原地区合唱連盟40周年記念	初演 委嘱曲
	男声合唱とピアノのための「赤い鳥小鳥」-北原白秋選集-	初演
2011年	第40回 記念定期演奏会 委嘱曲	三好 達治 作詩 丸山 薫 作曲
	男声合唱とピアノのための「わが詩友」	三好 達治 作詩 三好 達治 作曲
	男声合唱組曲「達治の旅情」	初演

Members

小田原男声合唱団

T1	内山 浩成 (小田原市)	青野 幸夫 (秦野市)	正純 (小田原市)	青野 (小田原市)	B1	青野 (小田原市)	正純 (小田原市)	赤川 軍一 (伊勢原市)
	加藤 重喜 (秦野市)	上利 宏司 (小田原市)	隆純 (南足柄市)	熱田 (南足柄市)		熱田 (南足柄市)	隆純 (南足柄市)	一色 義信 (秦野市)
	加藤 元一 (大磯町)	伊藤 甲一 (松田町)	清邦 (秦野市)	伊東 (秦野市)		伊東 (秦野市)	清邦 (秦野市)	磯田 幸男 (小田原市)
	河田 一男 (伊東市)	牛丸 紘一 (小田原市)	万里 (藤沢市)	岩越 (小田原市)		岩越 (小田原市)	万里 (藤沢市)	井上 忠彦 (小田原市)
	斎藤 惠司 (伊勢原市)	鬼澤 正純 (藤沢市)	卓男 (鎌倉市)	江川 (鎌倉市)		江川 (鎌倉市)	卓男 (鎌倉市)	大淵 覺 (横浜市)
	佐野 惠 (岡県 糟粕市)★	佐藤 精孝 (二宮町)	常昭 (小田原市)	大塚 (秦野市)		大塚 (秦野市)	常昭 (小田原市)	笠原 紘 (小田原市)
	諏訪部 清 (中井町)	杉本 健二 (南足柄市)	岡部仁之助 (秦野市)	岡部仁之助 (秦野市)		岡部仁之助 (秦野市)	岡部仁之助 (秦野市)	木村 昌彦 (茅ヶ崎市)
	福嶋 修 (小田原市)	福井 隆 (二宮町)	奥津 (真鶴町)	奥津 (真鶴町)		奥津 (真鶴町)	光隆 (真鶴町)	桑原 敏雄 (大井町)
	日置 達男 (小田原市)	奎中 勉 (秦野市)	小澤 (小田原市)	小澤 (小田原市)		小澤 (小田原市)	一 (小田原市)	古林源次郎 (二宮町)
	堀内 哲夫 (小田原市)	山田 允彦 (茅ヶ崎市)	菊池 義彦 (小田原市)	菊池 (小田原市)		菊池 (小田原市)	義彦 (小田原市)	坂口 宗夫 (小田原市)
	水城 高嶺 (秦野市)	山本 洋之 (小田原市)	下村 興毅 (小田原市)	下村 (小田原市)		下村 (小田原市)	興毅 (小田原市)	鈴木 壽久 (南足柄市)
	望月 信夫 (小田原市)	吉本 隆一 (小田原市)	高橋 茂樹 (小田原市)	高橋 (秦野市)		高橋 (秦野市)	茂樹 (小田原市)	曾我 重康 (小田原市)
			隆行 (秦野市)	西山 (秦野市)		西山 (秦野市)	隆行 (秦野市)	田島 達也 (南足柄市)
			裕光 (小田原市)	湯川 (小田原市)		湯川 (小田原市)	裕光 (小田原市)	柳田 圭一 (湯河原町)

☆ 団友

ワンステージメンバー

T1	伊藤 正昭 (横浜市)	坂口 新治 (南足柄市)	網盛 一郎 (小田原市)	亀山 忠彦 (小田原市)
	高桑 邦安 (横須賀市)	佐々木 純 (南足柄市)	岩田 一 (川崎市)	齊藤 健治 (川崎市)
	西山廣木代 (二宮町)	関野 文男 (南足柄市)	見尾田博樹 (小田原市)	
	逢見 泰一 (横浜市)	高瀬 昇次 (小田原市)	桃井 真也 (小田原市)	
	渡辺 功 (茅ヶ崎市)	山本 康史 (茅ヶ崎市)	横山 茂 (伊勢原市)	

音楽監督

常任指揮者

外山 浩爾

ピアノ

中根 希子

ヴォイス・トレナー

杉山 範雄

運営スタッフ

団 長 斎藤 恵司

副 団 長 青野 幸夫

団内指揮者 牛丸 紘一

技術部長 牛丸 紘一

事務局長 岩越 万里

財政部長 佐藤 精孝

団員部長 鈴木 壽久

渉外部長 大塚 常昭

情報部長 加藤 重喜

事業部長 青野 幸夫

財政監査

田島 達也

近藤陽一郎

演奏会スタッフ

委員長 青野 幸夫

事務局 岩越 万里

会 計 佐藤 精孝

出 演 伊藤 甲一

舞 台 各パートリーダー

録 音 原 誠

録 画 日置 達男

写 真 坂口 宗夫

渉 外 加藤 重喜

打上げ 大塚 常昭

チラシ 鈴木 壽久

アナウンス 青野 幸夫

受付 石崎 雅美

案内 混声合唱団小田原木曜会

市レセプション

パートリーダー

T1 日置 達男

T2 牛丸 紘一

B1 小澤 一

B2 磯田 幸男

財政副部長 笠原 紘

パートリーダー T1 望月 信夫

T2 山田 允彦

B1 熱田 隆純

B2 鈴木 壽久

情報副部長 日置 達男

吉本 隆一

事務局主事 井上 忠彦

箱根の山は 天下の険(げん) 物なかず
 函谷関(かん) 千仞(せん)の谷 霧は谷をとざす
 前(まへ)に聳(そび)え 後(ご)に支(さ)え
 雲(くも)は山(やま)をめぐり 霧(きり)は谷(や)をとざす
 星(ほし)猶(なほ)闇(くら)き 杉(すぎ)の並木
 羊腸(じやうぢやう)の小径(せうけい)は 苔滑(たぐら)か
 一夫(いつふ)関(かん)に当(あた)るや 万夫(ばんぷ)も開(ひら)くなし
 天下(てんか)に旅(り)する 剛毅(ごうぎ)の武士(ぶし)
 大刀(たうたう)腰(こし)に 足駄(あだ)がけ
 八里(はちり)の岩根(いわね) 踏(ふ)み鳴(な)らす
 斯(す)くこそありしか 往時(むかし)の武士(ぶし)

後(ご)には山(やま)がそびえ 後(ご)ろは谷(や)により塞(ふさ)がれている
 羊腸(じやうぢやう)の～ 羊(じやう)の腸(ぢやう)のように 長くくねくねと曲(まが)り続(つ)く道(みち)

箱根(はこね)の山(やま)は 天下(てんか)の阻(そり)
 関(かん)の山(やま) 千仞(せん)の谷(や) 霧(きり)は谷(や)をとざす
 前(まへ)に聳(そび)え 後(ご)に支(さ)え
 雲(くも)は山(やま)をめぐり 霧(きり)は谷(や)をとざす
 星(ほし)猶(なほ)闇(くら)き 杉(すぎ)の並木
 羊腸(じやうぢやう)の小径(せうけい)は 苔滑(たぐら)か
 一夫(いつふ)関(かん)に当(あた)るや 万夫(ばんぷ)も開(ひら)くなし
 天下(てんか)に旅(り)する 剛毅(ごうぎ)の武士(ぶし)
 大刀(たうたう)腰(こし)に 足駄(あだ)がけ
 八里(はちり)の岩根(いわね) 踏(ふ)み鳴(な)らす
 斯(す)くこそありけれ 近時(いま)の武士(ぶし)

一夫(いつふ)関(かん)に～ 一兵卒(いつへいそ)が守(まも)って 万(ばん)の敵(てき)が攻(せ)めて来(き)ても開(ひら)けられない
 蜀(しやく)の～ 断崖絶壁(だんげつてつぺき)に作(つく)られた柵(さく)のような道(みち)は人(ひと)一人(ひとり)がや(や)つとの險道(けんどう)

～歌でつむぐ日本の絆～ 日本民謡集

斎太郎節 宮城県民謡

エンヤ エー エンヤ エンヤ オット エンヤ オット エンヤ オット
 松島(まつしま)のサーヨー 瑞巖寺(ずいがんじ) ぼどの (ハッコリヤコリヤ) 大漁(だいりやう)だエー
 寺(てら)もないたエー アレハエー エトゾー オーリヤ 大漁(だいりやう)だエー
 エンヤ オット エンヤ オット エンヤ オット
 前(まへ)は海(うみ)サーヨー 後(ご)は山(やま)で (ハッコリヤコリヤ)
 小松原(こまつはら)トエー アレハエー エトゾー オーリヤ 大漁(だいりやう)だエー

ハツヨイシヨ
 石巻(いし巻)サーヨー その名(な)も高(たか)い (ハッコリヤコリヤ)
 日和(ひより)山(やま)トエー アレハエー エトゾー オーリヤ
 大漁(だいりやう)だエー

エンヤ エンヤ エンヤ エンヤ エンヤ エンヤ
 西(にし)東(とう)のサーヨー 松島(まつしま)遠(とほ)島(しま) (ハッコリヤコリヤ)
 目(め)の下(した)にトエー アレハエー エトゾー オーリヤ
 大漁(だいりやう)だエー 大漁(だいりやう)だエー

大島節 伊豆大島民謡

ハアアア
 わたしや大島(おほしま) 御神(ごんじん)火(ひ)育(こ)ちヨ
 胸(むね)に煙(えび)がヨ 絶(た)えはせぬヨ
 ハアアア
 つつじ椿(つばき)は御山(ごんさん)を照(て)らすヨ
 殿(との)の御船(ごんふね)はヨ 灘(な)照(て)らすヨ
 ハアアア
 茅ヶ崎(ちがさき)沖(おき)まじや 見送(みおく)りましようがヨ
 それから先(まへ)をばヨ 神頼(かみたの)みヨ

音戸の舟唄 広島県民謡

ヤーレー 船頭(ふねがしら)かわいやの 音戸(ねと)の瀬戸(せと)はヨ
 一丈(いちじやう)五尺(ごせき)のヤーレ 櫓(こ)がしゅわわヨ
 ヤーレー 泣(な)いてくれるなヨ 出船(でふね)の時にやヨ
 からすなくささのヤーレ 気(き)にかかるヨ
 ヤーレー 沖(おき)のカモメにやヨ 潮時(うしほ)間(ま)えばヨ
 わたしや立つ鳥(たづ)のヤーレ 彼(か)に問(と)えすヨ
 ヤーレー 安芸(あき)の宮島(みやじま)ヨ 廻(まわ)れば七里(しちり)ヨ
 七里(しちり)七浦(しちのうら)のヤーレ 七(なな)七(なな)意比(いひ)寿(す)ヨ

五木子守唄 熊本地方民謡

おどま 盆(ぼん)ざり 盆(ぼん)ざり
 盆(ぼん)から先(まへ)や お来(き)りや 早(はや)よもどる
 盆(ぼん)が早(はや) (お)よ来(き)りや 早(はや)よもどる

私(わたくし)たち(の子守奉公(こしほうこう))はお盆(ぼん)まで、お盆(ぼん)まで
 お盆(ぼん)が過(す)ぎたら居(ゐ)ませよ(実家(まじや)に帰(かえ)るんですよ)
 お盆(ぼん)が早(はや)く来(き)れば、早(はや)く(家(いへ)に)帰(かえ)れる

おどま かんじん かんじん
 あん人(あんな)達(たち)や よか帯(おび) よか着物(きもの)
 よかしや よか帯(おび) よか着物(きもの)

私(わたくし)たちは 貧乏(ひんぱん)で みすばらしい
 あの人(あのひと)たち(ご主人(ごしゆじん)たち)は お金(かね)持(も)ち
 あの人(あのひと)たち(ご主人(ごしゆじん)たち)は 美(うつく)しい帯(おび)や着物(きもの)を持(も)っている
 (お盆(ぼん)に家(いへ)に帰(かえ)った時(とき) 自(じ)分(ぶん)も着(き)れたらいいけど…)

おどんが うつ死(し)んだちゆて
 誰(たれ)が泣(な)いだからと いてくりゆきや
 裏(うら)の松山(まつやま)や 蟬(せみ)が鳴(な)く

(遠(とほ)く離(はな)れた所に子守奉公(こしほうこう)にきた)

私(わたくし)が死(し)んだからと いて
 誰(たれ)が悲(かな)しんでくれましようか
 裏(うら)の松山(まつやま)で、蟬(せみ)が鳴(な)いてくれるぐらいいいものだ

おどんが うつ死(し)んだば
 道端(みちばた)埋(う)り(埋)ける
 通(とほ)るひと毎(ごと)ち 花(はな)あざゆう

私(わたくし)が死(し)んでも(墓参(むさん)りなどして)くれないだろ(う)
 (それならば人(ひと)通(とほ)りのある)道端(みちばた)に埋(う)葬(じやう)してください
 通(とほ)る人(ひと)たち(に) 花(はな)でもあ(あ)げてもえら(え)るでしよう

花(はな)はなんの花(はな)
 つんつん棒(ぼう)
 水(みづ)は天(あま)から もらい水(みづ)

(あ)げてもら(もら)える)花(はな)は何(なに)の花(はな)でもいいの(の)です(す)が
 (道端(みちばた)にた)くさん(さん)あ(あ)る)棒(ぼう)の花(はな)が(が)いいです(す)よ
 水(みづ)が(が)無(な)くても 天(あま)から雨(あめ)が降(ふ)ってき(き)ます(す)から

最上川舟唄 山形県民謡

エーヤ エーヤ エーヤ エーヤ エーヤ エーヤ エーヤ エーヤ
 ヨイサノ マーカシヨ エンヤコラ マーカシヨ
 酒田(さか)さ行(い)くはげ達(た)者(もの) (お)でろちや
 流(なが)行(い)風(かぜ)邪(よ)など(な)どひがねよに
 マーカシヨ ヨイサノ マーカシヨ
 エンヤコラ マーカシヨ
 [以下 省略(りやく)します]

《 第37回 定期演奏会 プログラムより 清水雅彦 先生 寄稿 》

詩の大意 [訳詞 清水雅彦 先生]

1. La Martiniana マルティニアーナ (悲しい歌)

Andrés Henestrosa 詩 作曲者不詳

娘よ、私が死んだ時、どうか私の墓で泣かないで
 どうか美しいサンドウンガ (メキシコ民族舞踊・音楽) を私に歌っておくれ
 泣かないで、泣かないで、私がいなくても、私がいなくても、私がいなくても、
 もしお前が私のために歌ってくれたら、いつでも音楽の中で私は生き続けるのだから
 どうか歌っておくれ、音楽は死なないのだから

2. Canción Mixteca ミステフ族の歌 (メキシコ先住民の歌)

作詩者不詳 Jose Lopez Alaves 曲

今、私は何と生まれた地から離れた所に居て
 強い郷愁の思いにとらわれているのだから
 ただ風に吹かれる木の葉のように
 悲しみに泣きたい、死んでしまいたい、という思いに包まれている
 おお、今、私は何と光も愛も無い遠い地で、悲しみの中に生きていることか

3. Mi Linda Oaxaca 私の美しきオアハカ

Jacobo Kendis 詩・曲

僕は今、お前オアハカから遠く離れた片隅に居る
 オアハカ、私の生まれた愛すべき地よ、お前は私の中に生きている
 帰りたいと願う、私の涙の音が聞こえる
 私の魂である美しいオアハカよ、再び見ることなく死にたくはない
 宝物を守るかのような愛おしさで、私はお前を愛している
 もし帰れなくても、愛するオアハカよ、私はお前に懐かしさに満たたくちづけを与える

4. La Sandunga サンドウング (メキシコの民族舞踊・音楽)

Tradicional 曲

ああ神の母なるサンドウングよ、情け深い心の母よ
 ある夜、私はあなたの家へ行き、3つの鍵をかけた
 愛する者たちのために あなたがつからい夢を見ないように

5. Mañanitas マニヤニータ (朝の歌)

Juan G. Vasconcelis 詩 Neriberto Sanchez 曲

おおオアハカ、サファイアの空、今は光り輝くひまわりも花びらが散り
 山々の頂を金色の太陽がくちづけするように染めている
 すべてが朝の光、お祭りのように何と生気に満ちていることか
 すべてが愛の讃歌を歌い、祝杯をあげる、森さえも笑って見える
 茂みには鳥がさえずり、バラやオレンジの花が香気で満たす
 そして豊かな小麦畑ではひばりがさえずり始める 小川は岩々や苔をぬい、歌うように流れていく
 ああ、何と喜びに満ちた朝の情景であろうか

雨の来る前 伊藤 整 作詩

ざあっとやっやって来いよ 夏の雨
地上のすべてのものは用意している。
山の麓から低くかぶさってしまつた雲よ。
夏の緑はうす暗い蔭におおわれ
物ほしに白いものがかか
燕(ツバ)は黒く曇天の下を飛び交い
人は重い頭して室(む)に
降って来いよ 夏の夕立
その時 始めて人の目はほつと開かれ
草木も葉を そよがせるのだ。

雨の来る前 < 意訳の試み >

ひと雨、激しい夏の雨を降らしてくれ
視界にある全てのものは待ちこがれている。
雲は山の麓(ふもと)までたれこめ
緑を深めた木々の葉も影のようにうすれ
物干しの辺りに白い壁となり
燕(ツバ)は厚い雨雲の下を飛び急ぎ
人は重い心を引きずりながら室(む)に入る。
降れ、降れ夏の夕立の雨
降れば 人は改めて夏であることに気づき
草木の葉さえ 音びを体で表すだろう。

処女詩集『雪明かり路』

武蔵野の雨

大木惇夫 作詩

群鳥(むら)を追いながら
どの土地を濡(ぬ)らしにゆく
月の夜ごころを掠(か)めたる雨
樫(かし)の匂いのぶんんとする雨
武蔵野の雨

処女詩集『風・光・木の葉』

武蔵野の雨 < 意訳の試み >

群れ飛ぶ鳥影を追うように雨雲は
どの土地に雨を降らすというのだから
さえたわたる月夜が続くというのに光をさえぎる雨
樫(かし)の匂いをそつと運ぶ雨
武蔵野の雨の表情の深さを心に思い描いている

雨の日の遊動円木

大木惇夫 作詩

雨の日の遊動円木(ゆどうえんぼく)
びしょびしょ濡(ぬ)れて、ただ光って、
動くは低い雲ばかり。

雨の日の遊動円木(ゆどうえんぼく)
鐘(かね)が鳴っても、晝(ひ)やすみでも、
ゆすぶるものは 風ばかり。

雨の日の遊動円木(ゆどうえんぼく)
落ちる銀杏(いちょう)葉、ゆうかりの葉
雀(すずめ)が吹かれて、乗るばかり。
雨の日の遊動円木(ゆどうえんぼく)
びしょびしょ濡(ぬ)れて、もう日も暮れて
八ツ手の花が見ているばかり

第二詩集『秋に見る夢』

雨の日に見る

大木惇夫 作詩

冬、ほのぐらい雨の日は
朱樂(あま)が輝く、
朱樂(あま)が ……………
これは、眼(め)をひらいて見る夢なのか。

街燈はぬれている、
泥靴(どろく)は喘(あ)いでいる、
風は雀(すずめ)をふっ飛ばしている。
人間は後姿はいる、
歌は絶えている、
電線(でんせん)は響(ひび)かっている、
枯木(かき)はふるえている、
わたしの身体(からだ)は凍(こ)えている
わたしたしは祈りをわすれている、
そうして、わたしたしはただ見る、
ほの暗い雨の影のなかに
ぼっかり朱樂(あま)の浮かぶのを 輝くのを。

第三詩集『危険信号』

雨 八木重吉 作詩

雨のおとが きこえる
雨がふっていたのだ。

あのおとのように そつと世のために
はたらいたいよう。

雨があがるように しずかに死んでゆこう。

詩稿『母の瞳』

雨の日の遊動円木 < 意訳の試み >

雨の降る 公園の遊動円木(ゆどうえんぼく)
雨に濡(ぬ)れるにまかせ そつと静かな表情を光らせ、
あたりに動くのは 低くこれこめる雲だけである。

まだ降りやまぬ 雨の中の遊動円木(ゆどうえんぼく)
星休みの鐘(かね)が鳴って 人が訪れることもなく、
風ばかりが 重そうに揺らすのである。

いつまでも降りつづく 雨の中の遊動円木(ゆどうえんぼく)
銀杏(いちょう)もゆうかりも 葉を落とし、
風に吹かれた雀(すずめ)だけが 乗るだけである。

止みそうにない 雨の日の遊動円木(ゆどうえんぼく)
雨に濡(ぬ)れるにまかせているうちに 日も暮れてしまつたけれど、
八ツ手の花だけが いつまでも見えているのである。

雨の日に見る < 意訳の試み >

冬、心を閉ざす薄暗い雨の日には
いつそう、朱樂(あま)は輝きを増すのだろうか、
その朱樂(あま)を私は見ている ……………
これは、真実の夢なのだろうか。

視線の先の街燈(まちど)は雨にぬれ、
足元のぬかるみに泥靴(どろく)を引きずり、
吹く風に雀(すずめ)は容赦(りやうじや)なく追い払われ、
人は黙々と道を急ぎ、
誰もが歌う余裕など持ち合わせない、
電線(でんせん)さえ悲鳴に似た音を発し、
枯木(かき)は風のままに激しく揺れ、
わたしたしは身体(からだ)の芯まで寒さを感じ
折る気力さえ失っているだ。
視線は なのおの先にあるものを見ようとしている、
幽(ゆ)かな光に映し出される雨の中の
あることさえ人には気づかない 輝く朱樂(あま)である。

雨 < 意訳の試み >

心に響く雨の音である
私を包むように雨が降っていたのだ

あの雨の音のように必要とされるものとして
私は働いていこうと思う

雨が上がれば 足跡すら残さないように去りたいものだ

明日へ

～支えあおう～

NHK 東日本震災プロジェクト

花は咲く

作詩：岩井俊二

作曲：菅野よう子

1 真っ白な 雪道に 春風香る 2 夜空の 向こうの 朝の気配に
わたしは なつかしい わたしは なつかしい
あの街を 思い出す あの日々を 思い出す

叶えたい 夢もあった
変わりたい 自分もいた
今はただ なつかしい
あの人を 思い出す

傷ついで 傷つけて
報われず 泣いたりして
今はただ 愛おしい
あの人を 思い出す

誰かの歌が聞こえる
誰かを励ましてる
誰かの笑顔が見える
悲しみの向こう側に

誰かの想いが見える
誰かと結ばれてる
誰かの未来が見える
悲しみの向こう側に

花は 花は 花は咲く
いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く
わたしは何を残したたらう

花は 花は 花は咲く
いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く
わたしは何を残したたらう
花は 花は 花は咲く
いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く
わたしは何を残したたらう

花は 花は 花は咲く
いつか生まれる君に
花は 花は 花は咲く
いつか恋する君のために

本日はお忙しい中を第43回定期演奏会にお越しいただき本当に有難うございます。さて、今年の定期演奏会では、いくつかの特色を持たせていただきました。

一つ目は、小田男としては久しぶりの客演指揮の先生をお迎えいたしました。これまで1987年に黒岩英臣氏、1991年に多田武彦氏、1996年に石井敏氏など日本の音楽界、合唱界を代表される先生方をお招きしました。また、現在、音楽監督を務められる外山浩爾先生も1992年に客演指揮者として初めて小田男を振っていたいただいた経緯もあります。そのようなか、今年には辻秀幸先生をお迎えすることができました。辻先生につきましては、このプログラムの中にも先生のご活躍ぶりがうかがえる経歴等が記載されています。「辻三兄弟」としても、そのご活躍ぶりは皆様もご存知かとは思いますが、二男の志郎氏は小田原木曜会の指揮者をされていたことでもあります。ともかく、今や日本の合唱界を中心となつて牽引され、多忙な日々をお過ごし秀幸先生をお迎えできたことは小田男としては本当に光栄なことです。それには外山先生にご尽力いただきました。さて、数多くの合唱団を定期的に指導されている秀幸先生ですが、なんと「男声合唱団を指導するのは初めてなんです。楽しみです。」という言葉を最初にお会いした際にうかがいました。少し意外でしたが、練習の初回から団員一同、先生の情熱的で、豊かな表現力にあふれた指導に圧倒されました。本日の私たちの演奏が少しでも秀幸先生のその情熱に応えられればと願っています。

二つ目は、小田男が4年ぶりに行った海外遠征での取り組みをプログラムに取り入れたことです。今年の9月27日にドイツのSondershausenにて「Albert Fischer Chor(AFC)」との交換演奏会を行いました。AFCが7年前に来日し、その際に小田男と交流演奏会を持ったことが縁で今回の訪独となりました。第1ステージのドイツ語曲はAFCとの合同で演奏した曲です。また、第3ステージの愛唱歌集の何曲かは小田男の単独ステージで演奏し、ドイツの聴衆の皆さんにも好評をいただきました。

三つ目は、昨年に引き続き「1ステージメンバー」を募集したことです。昨年から始めたこの企画ですが、昨年の1ステージメンバーから3名が小田男に入団という嬉しいこともありました。男声合唱を楽しむ機会を提供し、さらには小田男で歌う楽しみを感じてもらいたい。そんな願いからもこの企画は今後も継続させたいと思います。

このように私たちの思いを込めた企画での本日の演奏会です。皆様が少しでも私たちの演奏をお楽しみいただければ幸いです。これまでの小田男へのご支援、ご指導に感謝し、今後小田男への温かい見守りを宜しくお願いしご挨拶とさせていただきます。

なお、団内のことで恐縮ですが、10年間にわたり団内指揮者を務めた団員の牛丸紘一は、今回の演奏会で団内指揮者の任を辞すこととなりました。